

費の道路修繕費に殘金を生ずるから、夫れを標識修繕費への流用を認めて貰ふこと。尤も此の場合には四角張ることもいらぬ。何れ食堂での漫談の時知事さんや關係筋へ提議すること。良い心掛ぢやと褒められること請合であり、交通

受益者も多寡の知れた費用だから異存ある筈がない。斯くて何れも一定の方針の下に二、三年も継続的に施行して行くと、凡そ其の面目が一新するであらうことを申し上げる。

道路の砂塵と農作物の損害

栃木縣經濟部土木課

(松村知事の命に依り特に調査したるものにて頗る好資料と見らるる調査である)

近時道路上の交通機關として代表的なるものは何と云つても自動車であることは申すまでもない、全國山間の小部落から町に或は僻邊の港津から都市に人も物も四輪タイヤの御厄介になつて運搬せられて居る、此の自動車が亦人間に大いに厄介を掛けて居ることも淺少でない、乗合自動車の顛覆や踏切に於ける衝突或は走行中人馬の轢殺傷等日日

毎日可成災禍を醸して居る、就中砂利道を疾驅する場合の砂塵を飛散せしむることは誠に甚大で夫れによる沿道住民の衛生上は勿論住宅商品等の損失を始め農作物の減收も著しと思ふが茲には道路の砂塵が如何に農作物に損害を與へ居るかに付て最近に於て小さな實驗の結果を報告して大方の御批判を仰ぎたいと思ふ試驗は栃木縣下に於ける畑地麥作の生産量に就て調べたもので凡そ次の様な記録を得た。

四、成績表

村名	品名	區別	反當		實收歩合		反當一升	品位	等級	
			重量	容量	重量	容量				
篠井	赤	石	一	五四、三〇〇	四七二	五三・三	四九・九	一五〇	三六四	三〇・六
			二	六〇、七五〇	一六〇	五七・四	五五・六	四五〇	三三六	三〇・八
			三	八八、五〇〇	二、四三一	八三・七	八二・四	六〇〇	三六四	三九・八
			四	一〇五、七五〇	二、九七二	〇〇・〇	〇〇・〇	七五〇	三五四	三一四・四
平石	赤	石	一	四〇、〇〇〇	一、二四一	五〇・九	五五・四	七五〇	三三〇	等外
			二	六〇、〇〇〇	一、六九五	七六・二	七七・三	三〇〇	三五四	三
			三	七〇、二〇〇	一、九八〇	八九・一	九〇・三	一五〇	三五四	三九・八
			四	七八、七五〇	二、一五二	一〇〇・〇	一〇〇・〇	三〇〇	三五九	四一四・四
横川	赤	石	一	四四、三〇〇	一、三三三	六三・八	六六・八	四五〇	三五五	等外
			二	五〇、二五〇	一、三九九	七二・三	七三・三	一	三三九	四
			三	六九、〇〇〇	一、九〇〇	九七・九	九八・一	三〇〇	三六三	三九〇
			四	七〇、五〇〇	二、九六六	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一五〇	三五四	三八五
明治關取	赤	石	一	八〇、一〇〇	二、二二八	八四・一	八五・二	四五〇	三六一	三〇〇
			二	九三、四〇〇	二、五九八	九六・一	九八・五	七五〇	三六一	四三七
			三	九三、二〇〇	二、五五九	九七・八	九八・三	三〇〇	三六四	五七五
			四	九三、三〇〇	二、六〇一	一〇〇・〇	一〇〇・〇	四五〇	三六六	三一七・四

五、成績表の説明

成績表中篠井村地内に就て説明を試みるならば第四地區は道路とは最も隔離するので砂塵の影響も殆んど皆無と見ることが出来たから實收歩合を一〇〇として收穫を反當に換算すること重量に於て百五貫七百五十匁容量に於て二石九斗八升七合であつたが。

第一區の收穫反當り換算實收は重量に於て五十四貫三百匁容量に於て一石四斗九升二合、之を第四區の收穫に比較すると重量に於て五一％三容量に於て四九％九に相當するから約半減と云ふべきである。

第二區、第三區共表の通道路に近接する方が多分に減少して居る。

次に屑麥の反當產出重量は試験場所によつて例外はあるが概して道路近接地が多量であることとなつて居る、又品位は縣農事試験場の標準に従つたのであるが一等が上等として順次四等に及び四等の次は等外と稱して五等になるべき不良質であるが之も試験場所に依つて例外はあるが概して道路近接地が不良である。

試験場中平石、横川、明治共數字上には何れも差異があるが五割乃至一割五分程度の減收が明かに示される。

栃木縣の主要農産物たる水稻、煙草、大麻、干瓢に就ても目下試験中であるから追て御報告する。